

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年5月15日 (2014.5.15)

【公開番号】特開2014-52572(P2014-52572A)
 【公開日】平成26年3月20日 (2014.3.20)
 【年通号数】公開・登録公報2014-015
 【出願番号】特願2012-198121(P2012-198121)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 26/12 (2006.01)
 B 4 1 J 2/44 (2006.01)
 H 0 4 N 1/113 (2006.01)
 G 0 2 B 13/00 (2006.01)
 G 0 2 B 13/18 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 26/10 1 0 3
 B 4 1 J 3/00 D
 H 0 4 N 1/04 1 0 4 A
 G 0 2 B 13/00
 G 0 2 B 13/18

【手続補正書】
 【提出日】平成26年3月28日 (2014.3.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 3】

特許文献 1 においては、このサグによる影響を小さくするため、光源からの光束がポリゴンミラーに入射する位置（ポリゴンミラーの回転中心と第 1 光学系の光軸との距離 h ）を所定値以内にする事で、サグを、基準偏向主光線に対して対称に近い状態にしている（0 0 1 6 参照）。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 8】

ところで、図 2 に示すように、ミラー面 5 A での反射点からレンズ面 L 1 までの距離や、レンズ面 L 2 から被走査面 5 1 A までの距離は、被走査面 5 1 A 上の像高 y によって変化する。また、入射光学系 1 4 からの光束がポリゴンミラー 5 のミラー面 5 A に当たる位置は偏向方向によって異なるため、被走査面 5 1 A 上では、像面湾曲などの画像の歪みが発生する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 8】

上記の設計の結果、得られた光学系の像面湾曲、 f 特性およびリニアリティ特性を実施例 1 について図示したグラフが、図 6、図 7 であり、これらの特性の P V 値 (P e a k t o V a l l e y : 山と谷の値の差) と、各実施例および比較例のレンズシフト量 D_1 、レンズチルト量 θ_1 、レンズ面 L 2 のシフト量 D_2 、レンズ面 L 2 のチルト量 θ_2 の値をまとめたのが図 8 である。